

日本科学振興協会 JAAS サイエンスアゴラ 2026

ボイスウォールみんなの声

参加者コメント 5 テーマ分析報告書

本報告書は、参加者から寄せられた自由記述コメント 101 件を、chatGPT5.6 を用いて 5 つのテーマに分けて整理したものです。全体として、科学や学びへの関心そのものは高い一方、それを継続し社会につなげるための教育、支援、制度、ルールが不足しているという共通課題が見いだされた。生なデータの方が、ハッとさせられるコメントが多かったですが、まとめてしまったため、幾分マイルドになっています。※文字が読み取れないデータが 1 部あり、それは含めていない。

黒ラブ教授

分析対象の概要

テーマ	件数	中心的な論点
探究の時間	22	好奇心を生かす可能性と、テーマ設定、指導、倫理の難しさ
科学で実現してほしいこと	7	病気、老化、移動、宇宙など、人間の制約を越える科学への期待
理系を増やすには	25	文理区分や固定観念を見直し、体験と進路の柔軟性を高める必要
AI の進化への期待と不安	26	利便性への期待と、制御、仕事、権利、真正性への懸念
博士人材の現状と可能性	21	高い能力評価と、不安定な進路や待遇とのギャップ

注 自由記述の質的分析であり、件数は母集団の意見割合を示すものではない。

1 探究の時間について

コメント数 22 件

探究の理念には比較的肯定的な意見が多い一方、実際の授業では、テーマ設定、深め方、意欲差、教員負担、研究倫理などの課題が示された。

主な意見

- 自分の興味を深め、不思議なことが分かる楽しさがある。
- 進路や学部選択につながり、自分で目標を達成する経験になる。
- テーマを決めることや、テーマを深める方法が難しい。
- 生徒の意欲差が大きく、教員にも高い指導負担がかかる。
- 専門家による支援と、調査方法や研究倫理の指導が必要である。
- 形式的な作業ではなく、本気で取り組める時間にしてほしい。

分析

探究という授業を設置するだけで、探究心が自動的に育つわけではない。自由度が高いほど、基礎知識、テーマ例、調査方法、相談相手といった足場が必要になる。また、社会課題への接続を求めすぎると、本人の純粋な興味を弱める可能性もある。

今後への示唆

探究を充実させるには、自由に任せるだけでなく、テーマ設定の補助、基礎知識の提供、専門家との接続、研究倫理の指導を組み合わせる必要がある。

2 科学で実現してほしいことと研究アイデア

コメント数 7 件

回答は、医療、人間の限界の克服、未来技術、宇宙体験という方向に集約された。単なる利便性ではなく、現在の人間が越えられない制約を科学によって乗り越えたいという期待が表れている。

主な意見

- 筋ジストロフィーや精神疾患の治療法を確立する。
- 植込み型除細動器の充電を非接触化し、手術の負担を減らす。
- 老化を防ぎ、年を取らない世界を実現する。
- タイムマシンやタケコプターのような未来技術を実現する。
- 宇宙にいるような感覚で星を見られるプラネタリウムをつくる。

分析

医療に関する回答では、病気を治すことに加えて、治療や機器交換に伴う負担を減らしたいという具体的な視点が見られた。一方、タイムマシンやタケコプターは、実現可能性よりも科学への夢や憧れを示している。現実的な社会課題と自由な空想の両方が、科学への関心を生み出している。

今後への示唆

科学への関心を育てる際は、社会課題の解決だけに限定せず、実現したら面白いという自由な発想を受け止めることが重要である。

3 理系を増やすには 理系のイメージとは？

コメント数 25 件

理系離れの原因は、科学への興味不足だけでなく、文理区分と理系に対する固定観念にもあると考えられている。理系を選ばせる施策より、学び方と進路の柔軟性を高める提案が多かった。

主な意見

- 文系と理系を明確に分けること自体を見直す。
- 理系は数学、難しい、留年しやすいというイメージを減らす。
- 実験や体験学習を増やし、問題を解けた成功体験をつくる。
- 答えを覚えるのではなく、答えに至る考え方を学ぶ。
- 一度文系を選んでも、途中から理系へ変更できる経路を増やす。
- 女子が中学校以降に科学活動から離れていく環境要因を見直す。

分析

小学生では男女ともに実験を楽しんでいるのに、中学校以降に女子が科学活動から減っていくという指摘は、能力差よりも、周囲のイメージ、ロールモデル、進路選択、所属しやすさの影響を示唆する。また、文理を早期に固定すると、後から関心が生まれても進路を変えにくい。

今後への示唆

文理の境界を低くし、実験や問題解決の楽しさを伝え、途中からでも進路を変更できる制度と学習支援を整えることが重要である。

4 AI の進化に対する期待と不安

コメント数 26 件

AI を全面的に肯定または否定する意見よりも、便利ではあるが条件やルールが必要だという意見が中心だった。AI そのものより、人間が制御し、検証し、責任を持って使えるかが問題視されている。

主な意見

- 仕事や研究を効率化し、人間の思考を補助する良いパートナーになる。
- ADHD などの特性を補う支援技術として役立つ。
- 軍事利用や暴走を防ぐ安全基準が必要である。
- 仕事の減少や人間の役割、生きがいの喪失が心配である。
- 誤答、著作権、クリエイターの権利、本物と偽物の区別に課題がある。
- AI を信じすぎず、質問や検証ができる利用者側の技能が必要である。

分析

実際に AI を利用している回答者は、利便性を評価しながらも、安全性、正しい知識、教育、ガバナンスの必要性を認識している。したがって、主要な対立は AI を使うか使わないかではなく、どの範囲で、どのような責任のもとで使うかにある。

今後への示唆

AI 教育では、操作方法だけでなく、出力を疑う力、根拠を確認する力、依存せず使い分ける力、権利と責任を理解する力を育てる必要がある。

5 博士人材の現状と可能性

コメント数 21 件

博士人材の能力や経験は高く評価されている一方、社会的な待遇、研究資金、キャリアの出口には強い不安が示された。

主な意見

- ・ 未来をつくり、一つのテーマを多角的に探究できる人材である。
- ・ 常識を疑い、新しい視点を提示できる。
- ・ 博士課程の経験は、研究以外の仕事や人生にも生かせる。
- ・ 研究資金や修了後のポストが少なく、進路が不安定である。
- ・ 企業が博士人材に何を求めているのかが分かりにくい。
- ・ 産業界、教育、起業など、研究職以外の進路を広げる必要がある。

分析

全体を貫くのは、博士課程で得られる能力の価値は高いのに、社会制度がその価値を十分に認めていないというギャップである。博士号を研究職に就くためだけの資格として扱うと、問題設定力、検証力、専門性、批判的思考力が社会で生かされにくい。

今後への示唆

経済支援や研究職の拡充に加え、産業界との接点、博士人材向け採用、学校教育や行政での活用など、複数の出口を具体的に見せる必要がある。

全体を通した結論

5つのテーマに共通するのは、興味や能力が不足しているのではなく、それを育て、継続し、社会につなげる仕組みが不足しているという点である。科学への夢、AIへの期待、探究への関心、博士人材への尊敬、理系の楽しさは、すでに多くの回答に表れている。しかし、教育方法、指導者、経済支援、キャリア、安全性、ルールが不十分なため、期待が不安や諦めに変わる可能性がある。

今後重視すべき5つの方向性

- 好奇心や自由な発想を出発点にする。
- 基礎知識と考え方を段階的に教える。
- 専門家や支援者につなされる環境をつくる。
- 失敗や途中変更を許容する。
- 学んだことを将来の仕事や社会参加につなげる。

分析上の留意点 本報告書は、自由記述コメントをテーマ別に整理した質的分析である。意見の種類や傾向は把握できるが、回答者全体や一般社会の割合を推定する統計調査ではない。

年次大会、兼務サイエンスアゴラ 大会委員長 サイエンスコミュニケーター 大学の先生芸人
黒ラブ教授